

たろ

TAKUSUI
No. 781

11
November.2021

発行 (一財)兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌

第41回 全国豊かな海づくり大会兵庫大会まであと **12**ヶ月



CONTENTS

- 2 ようそろ
- 3 日本海 松葉ガニ漁 解禁
豊かな海を取り戻すために“かいぼり”実施
- 4 特集 第41回 全国豊かな海づくり大会兵庫大会
～御食国ひょうご～ 1年前イベント開催
- 6 漁連の魚屋 加古川店 グランドオープン
第41回 全国豊かな海づくり大会兵庫大会
～御食国ひょうご～ 大会記念リレー放流
- 7 兵庫JCC通信
- 8 旬に想う
大輪田塾だより

ようこそ

「ずっと真っ直ぐに」
（ようこそとは航海用語で「宜しく候」の意。
主に船を直進させるときの号令として使われる）

駆け出しバサー

兵庫県水産振興基金 六反田 玲子



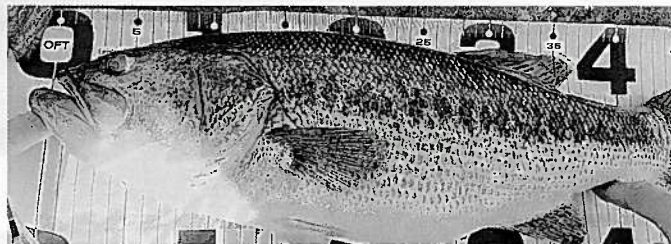
「バス釣り始めました！」とは
言っても数回行った直後に新型
コロナウイルス感染拡大の為、全
然行けていませんが……

何か新しい事やってみたいなあ
と思っていた時に、バス釣り歴の
長い友人達から誘われ、「面白そ
うーちょっと経験してみたい」と興味を持ったのがきっかけ
です。まだ自分の道具は持っておらず、セットしてもらった
ものをひたすら投げ入れている状態です。

私の釣り経験は、小学生の頃に家族で行った有馬のニジマ
ス釣りくらいです。マス池で練り餌で釣ったニジマスを塩焼
きや唐揚げにして食べるのが楽しかったです。そんな数回しか
釣り経験がなかったのですが、休日を利用して四国へ遠征し、
早明浦ダム（高知県）・野村ダム（愛媛県）・金砂湖（愛媛県）
府中湖（香川県）など自然に囲まれた場所で、ワームを使っ
た陸（おか）つぱりをし、ご当地グルメを堪能しています。

静寂に包まれ、ゆっくりとした時間が流れると日常を忘れ、
とてもリフレッシュ出来ます。バスが居そうな場所を狙うも初心者にはとても難しく、
しょっちゅう根がかりし、心が折れそうになります。時々ググっとした感触があり、
うまくタイミングを合わせて適度にテンションをかけ、バラさないように引き上げる。
そして釣り上げた際、バスの大きな口の中にガッツリ親指を入れてグッと掴むのが一
苦労。あの独特の匂いと鋭い歯で皮膚が切れる時もある為、毎回躊躇しますがそれも
「勲章」と周りに励まされ、頑張つて掴んでいます。かかった時のググッと引く感触
がクセになり、とても楽しくはまっています。

現在の最長記録は50センチくらいですが、コロナが収まり、外出が自由にできるよ
うになったら記録更新を目指してバス釣りを再開したいと思っています。お薦めの釣りポ
イントやご当地グルメのお店があったら是非教えてください！



表紙の言葉

第41回 全国豊かな海づくり大会兵庫大会コスチュームを 身にまとった「はばタン」

兵庫県マスコットキャラクター「はばタン」の第41回 全国豊かな海づくり大会兵庫大
会用コスチュームデザインは、全国から2,076件の応募があり、「はばタンの顔の上の魚
の顔と白い長靴の組み合わせがユニークかつ可愛い」、「良く目立つ優れたデザイン」で
あるなど、最優秀賞を受賞した兵庫県立山崎高等学校2年生の福田咲さんのデザイン
に決定しました。【関連記事 4、5項】



《今月の海上安全標語》 ～ 後悔しないように ～

事故を起こすと、ああすればよかった、こうすればよかったと後悔することがほとんど
です。しかし事故の発生は一瞬の出来事なので、いくら後悔しても遅いのです。
くれぐれも後悔しないように作業の安全確認、ライフジャケットを着用してください。

事故は一瞬 後悔しても もう遅い では、今月も安全操業で！

日本海 松葉ガニ漁 解禁!!



日本海の冬の味覚、ズワイガニ(松葉ガニ)漁が、富山県から島根県までの1府6県で11月6日(土)に一斉に解禁となりました。日本一の水揚げを誇る兵庫でも、JF但馬、JF浜坂所属の沖合底曳船40隻が次々に出港し、解禁の午前0時を待って一斉に網を投入しました。

この漁の操業は3月20日まで行われますが、資源を守るために様々な自主規制を設けています。

・公休日の設定

32時間以上の休みを3回以上設ける。

・漁期の短縮

メスガニ(セコガニ)は、本来1月20日までのところ12月31日まで。若マツバガニ(ミスガニ)は、本来11月6日〜3月20日までのところ、2月1日から2月28日まで。

その他、航海日数によるメスガニや若マツバガニの採捕数制限や甲幅制限(漁獲禁止サイズ)等があります。

いよいよ解禁となった松葉ガニ漁。今漁期の豊漁と安全操業を祈念します。(JF兵庫漁連)



豊かな海を取り戻すために“かいぼり”を実施

～JF森・仮屋の漁業者ら約70人がかいぼり作業に汗を流す～



丁寧に手作業で流していきます



山からの砂や泥が堆積していました

JF森(森吉秀組合長)とJF仮屋(岡田光司組合長)は、平成20年度から農業者と連携を図り、毎年、近のため池での「かいぼり」作業を継続して行っています。ため池の堆積土に含まれる窒素やリンなどの栄養を海へ流すことで海に栄養を供給するのはもちろん、貯水量増加や堰堤のメンテナンスのほか、外来魚の駆除も行え、農業のみならず防災や環境面の効果でも注目されています。

JF森・仮屋の漁業者や地元農業者ら約70名が作業に汗を流しました。

池に残った魚を水槽に移したあと、水が抜かれた池の底に溜まった泥を、漁業者らがポンプの放水に併せてジョレンなどの道具を使い手作業で取り除くと、栄養を含んだ泥は勢いよく水門から下流へと流れました。

この「かいぼり」の取り組みは、淡路島内に留まらず、播磨地区にも拡がりをみせており、豊かな海を取り戻す運動として期待されており、今後さらなる広がりを期待して見せていくことになるでしょう。

第41回 全国豊かな海づくり大会兵庫大会 ~御食国ひょうご~

1年前フレイイベントが開催されました!

令和4年11月に明石市で開催する「第41回全国豊かな海づくり大会~御食国ひょうご~」に向けた機運醸成と、本番を想定した検証を行うため、10月17日に1年前フレイイベントが開催され、県及び漁業関係者、地元小学生ら約300人が参加しました。

当日は、朝まで雨が降り続いていましたが、式典行事が始まる頃には雨も上がり、青空のもと海上歓迎・放流行事が盛大に執り行われ、本番に向けた絶好のスタートを切ることができました。

大会の準備、運営にご尽力いただいた関係職員の皆様、当日スタッフとして参加された系統団体職員の皆さま、本当にお疲れさまでした!

大会本番まで1年余り。今後、準備が本格化していきますが、大会を成功に導いていけるよう関係者一丸となって頑張っていきたいと思います!

【フレイイベントの概要】

- 1 日時 令和3年10月17日(日) 10:00~12:00
- 2 場所 明石市立市民会館(式典)、明石港ベランダ護岸(海上歓迎・放流)
- 3 参加者 招待者154名、中崎小学校児童等167名、計321名(報道関係者13名、スタッフ68名)

式典行事(司会者:松川浩子(MBS毎日放送アナウンサー))

時間	内容	概要・出演者等
10:00	開会	
	主催者挨拶	兵庫県知事
	開催市長挨拶	明石市長
	主催者紹介	司会者による主催登壇者の紹介
	ひょうご海の子作品展表彰式	兵庫県知事賞、明石市長賞(絵画・作文)の受賞者4名へ賞の贈呈
	ひょうご海の子作品展 兵庫県知事賞受賞作文の朗読	兵庫県知事賞受賞者による朗読[映像]
	大会テーマ・大会ロゴ・大会キャラクター紹介	大会テーマ制作者からのコメント紹介 大会ロゴの紹介 大会キャラクター・コスチュームデザイン制作者へのインタビュー
10:40	大会テーマソング制作アーティスト紹介	兵庫県出身シンガーソングライター 植村花菜氏へのインタビュー
	閉会	ベランダ護岸へ徒歩で移動

海上歓迎・放流行事(司会者:高井美紀(MBS毎日放送アナウンサー))

時間	内容	概要・出演者等
11:15	開会	
	歓迎演奏・大船団パレード	演奏:兵庫県立明石南高等学校吹奏楽部
	漁法紹介	漁船による本県の代表的な漁法の紹介 演奏:神戸市立須磨翔風高等学校和太鼓部
	第1回放流(マダイ)	主催者、表彰者、招待者等による稚魚放流
	第2回放流(ヒラメ)	演奏:兵庫県立明石南高等学校吹奏楽部
12:00	閉会のあいさつ	兵庫県議会議長
	閉会・フェアウェルアトラクション	演奏:神戸市立須磨翔風高等学校和太鼓部

※海上歓迎・放流行事から中崎小学校の児童とその家族も参加

【大会ロゴ】



【大会テーマ】

「^{あお}広げよう 碧く豊かな海づくり」

※植物プランクトンが適切な濃度の「碧い海」が、全国に広がる事を期待する想いを表現

【漁船パレード参加漁協】

所属	参加隻数
明石浦	20
林崎	15
江井ヶ島	1
東二見	6
西二見	4
兵庫	1
神戸市	12
淡路島岩屋	20
育波浦	8
合計	87

【漁法紹介参加漁船】

紹介順	所属	漁業種類	船名	船長
1	神戸市	機船船びき網漁船(網船)	第五拾六戎丸	前田 明俊
		機船船びき網漁船(網船)	第五拾七戎丸	柿山 強
		機船船びき網漁船(運搬船)	第五拾五戎丸	前田 暢宏
2	西二見	ノリ養殖漁船	第21松本丸	松本 久進
3	江井ヶ島	小型底びき網漁船	明石丸	橘 宏明
4	淡路島岩屋	五智網漁船	志麻丸	濱田 直樹
5	林崎	たこつぼ漁船	住吉丸	増本 良生
6	明石浦	一本釣り漁船	明石丸	柏木 泰裕
7	官公庁船	漁業取締船	はやたか	角田 隆彦
8	官公庁船	漁業・環境調査船	新ひょうご	東一 篤潔

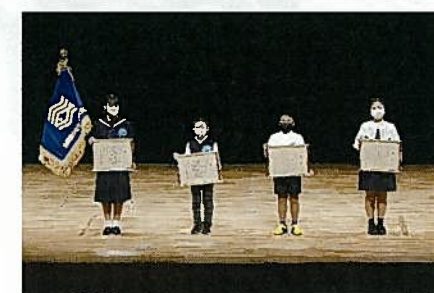


市民会館での受付の様子

齋藤知事のあいさつ

福田咲さんのインタビュー

明石市立市民会館で行われた式典行事では、まず実行委員会会長を務める齋藤元彦兵庫県知事があいさつし、「大会を機に豊かな海づくりの取組の輪を全国に広げていきたい」と述べました。続いて、開催市を代表し泉房穂明石市長が「豊かな海をしっかりと取り戻していく」とあいさつしました。その後、ひょうご海の子作品展の表彰式が行われ、知事賞を受賞した姫路市立坊勢中学校2年の桂菜瑚さんの作文「きれいな海とゆたかな海」の朗読VTRを上映しました。また、「ひょうごブルー」と名付けた豊かな海を象徴する青緑色を使った大会ロゴマークを発表したほか、大会オリジナルコスチュームを身にまとった「はばタン」を紹介。コスチュームをデザインした県立山崎高等学校2年福田咲さんは、インタビューでデザイン募集の最優秀賞を受賞した時の喜びを語りました。そして、式典行事の最後には、大会テーマソングを制作する川西市出身のシンガーソングライター植村花菜さんご本人がサプライズで登場。大会テーマソング制作に掛ける思いを語っていただきました。



ひょうご海の子作品展の表彰



大船団パレードを観覧する招待者

漁法紹介の様子

放流台から手を振る登壇者



稚魚の放流

式典行事終了後、招待者は、明石港ベランダ護岸に移動し、海上歓迎・放流行事に参加。ここには、会場に隣接する明石市立中崎小学校の小学生も駆けつけました。海上歓迎・放流行事では、まず、県立明石南高等学校の吹奏楽部の演奏のもと、大船団パレードがスタート。明石浦、林崎、江井ヶ島、東二見、西二見、兵庫、神戸市、淡路島岩屋、育波浦の各漁協に所属する約90隻の漁船が参加し、勇壮なパレードを披露しました。来年は全船が大漁旗を掲げ、より一層力強いパレードを繰り広げてくれるものと思われます。

続いて、神戸市立須磨翔風高等学校の迫力ある和太鼓演奏が響く中、大漁旗を掲げた漁船が招待者の目の前を航行し、県の代表的な漁法を紹介したほか、大会の成功を祈念し、招待者と中崎小学校児童とその家族によるマダイとヒラメの放流を行いました。



「JF兵庫漁連が魚を大好きに
なってもらえる場所を提供！」

漁連の魚屋 加古川店 グランドオープン



10月28日(木)、アリオ加古川「グリーンマーケット」内にJF兵庫漁連の直売所「漁連の魚屋 加古川店」がグランドオープンしました。

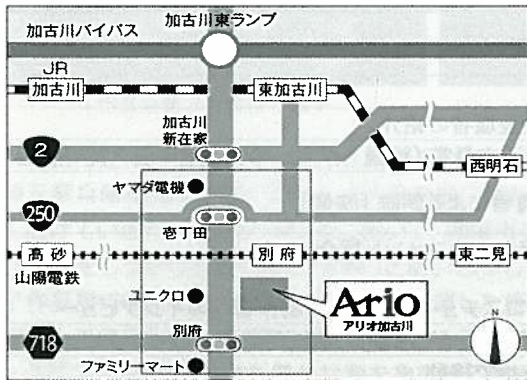
この日は、アリオ加古川のリニューアルオープンとあって多くの来客者があり、開店と同時に売り場は大いに賑わい、好調な滑り出しとなりました。

店内では、真ダイ、サワラ、コンテナケイスに入った紅ズワイガニ、甘えびなど兵庫県産の鮮魚を従業員が丁寧に説明しながら販売しており、お客様と従業員の近さが感じられました。また、鮮魚以外にも安心安全で美味しい県内産の水産物を中心に、刺身、惣菜、寿司、乾物、JF兵庫漁連冷凍商品などがありました。

好調なスタートを切ることができた「漁連の魚屋 加古川店」が、これからも長く地域の皆様に愛される店舗となるよう願っております。



「Instagramフォロー」をお願いします！



多くの来店者で賑わいました！

第41回 全国豊かな海づくり大会兵庫大会～御食国ひょうご～ 大会記念リレー放流

明石鯛と豊かな海を子どもたちが守る！！

～明石市漁業組合連合会が漁業者と子どもたちでマダイ放流を実施～



全員での記念撮影



マダイの稚魚を放流する園児

明石市漁業組合連合会（大西賀雄会長）は令和3年10月19日（火）に明石市の林崎海岸広場において、林幼稚園の園児、漁業関係者、行政関係者約70名が参加し、生き物学習教室、マダイの稚魚放流を実施しました。

この日まで、関係機関と連携しながら、持続型漁業の実現を目指し、「とる漁業から育てる漁業へ」を合言葉に、資源管理のひとつとして、種苗放流事業を昭和42年から実施してきました。今回は、子供たちに、明石のたからものである「明石鯛」について親しみや関心を持ってもらうとともに、郷土愛を感じてもらおう事を目的に、地元の林幼稚園の園児と一緒に明石市の特産品である「明石鯛」の稚魚放流を実施しました。

当日は、園児とともに、同連合会の戎本 裕副会長をはじめ、林崎漁協青年部、5漁協の職員の参加に加え、兵庫大会のマスコットキャラクターのはばたんも参加し、園児の豊かな海づくりに華を添えました。

（明石市漁業組合連合会）

契約栽培の拡大で 農家所得の増大に取り組む

JA兵庫西は、生産者の安定した収入や出荷先確保のため、漬物会社や量販店などとの契約栽培を進めています。

相生市若狭野町の伊東敬文さんは、8年前に水稻農家として就農し、4年前に独立してからはハウレンソウやキャベツ、ブロッコリーなどの野菜を育てています。農業所得を上げるために新たな作物の栽培を考えていたところ、同JAの販売担当者から漬物用ミブナの契約栽培について提案を受けました。伊東さんは、「ミブナという作物に馴染みがなかったが、育てた野菜が漬物に加工されることに興味がわき、栽培に挑戦した」と話します。現在は春と秋冬の2回出荷し、栽培面積の拡大に努めた結果、3年目となる今年の出荷量は約3倍になりました。

栽培規模の拡大には、同JAの働きかけが大きく影響しました。地区担当の営農指導員をはじめ、生産者と業者を結ぶ販売コーディネーター、そして入組1年目の酒井実侑さんが伊東さんの畑を訪れ、病害虫対策などをアドバイスします。伊東さんは、「気軽に相談できる、心強い存在」と話します。

同JAでは、販売コーディネーターを中心として野菜の契約栽培に力を注ぎます。作付け品目の増加にも取り組み、令和元年以降、ナスやカブなど計6品目が新たに増えました。今後も農家の所得向上と生産拡大に向け、既存の契約先との取引拡大や新規の販路開拓に取り組めます。



ミブナの生育状況について話す伊東さん(左)と酒井さん

<http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/>

2021年度 兵庫県生協大会を開催

〈テーマ：つながる力で未来をひらく
～平和で持続可能な社会の実現～〉

10月29日(金)、ピフレホール(神戸市長田区)において、2021年度 兵庫県生協大会を開催し、会員生協・団体の組合員、役員や職員など180人が集いました。

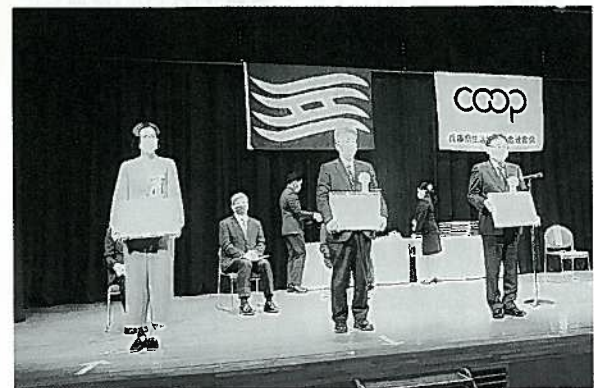
主催者を代表して兵庫県生協連 岩山利久 会長理事が挨拶。引き続き、兵庫県 片山安孝副知事がより祝辞をいただきました。その後、神戸市 経済観光局 豊永太郎副局長 ならびに兵庫県議会 藤本百男議長より祝辞をいただきました。

続いて行われた表彰式では、長年にわたり生協の発展に寄与された3人の方に「兵庫県知事感謝」が贈られました。また、生協業務に精励した25人の役員・職員に「兵庫県生活協同組合連合会 会長表彰」が贈られ、会場からも大きな拍手が送られました。

別会場では、「兵庫の生協 今 何してる?」とのタイトルで、写真を中心としたわかりやすいパネル展示による会員生協の活動紹介を行いました。



祝辞を述べる片山副知事



「兵庫県知事感謝」受賞者

<http://www.coop-hyogo-union.or.jp/>



旬に想

写真と文
遊方子

夜の力

◆子供の頃、夜が怖かった。闇には得体の知れぬ恐ろしい何か潜んでいるようで、暗闇に凝って居るのは、我慢できぬ恐怖に繋っていた。戦争中に疎開していた田舎では、トイレが屋外にあり夜中に行くのが堪らなく恐ろしかった。また郷里の家は暗い庭を巡る廊下の突き当たりがトイレで、真つ暗な闇に庭の樹が不気味で、恐怖を誘ったものだ。妹がドタドタと走っていたのを思い出す。夏にお化け屋敷の催しがあり、人工的な暗闇の中でキアアキアアと悲鳴を挙げていた。暗闇の中で魑魅魍魎に想いを馳せ愉しんでいるようである。

◆作家は夜に執筆を行っている人が多いという。夜は電話も掛からず訪問者も無く家族も寝てしまい、孤独と静寂に満ちて精神を集中できる。雑念から解放され、執筆に全神経を集める事が可能になるそうだ。静寂や暗闇など夜間と呼ぶこの時刻、昼間とは異質の何かがありそうに思う。少し以前に比べ、夜は明るくはなっているが、日中とは全く別世界で暗い。天文学館で真つ暗闇を味わう。鼻を摘まれても判らぬ暗さの中で、星空の話聞きつつ眠ったりした。

◆役者/左下全の台詞に『夜ハ、眠ルダ』というのがあった。そう、夜は眠るものである。コンビニが終夜営業やTVの24時間放送もあり、ビデオやゲーム・インターネットでも一晩中起きてはおれる。しかし睡眠は、単に脳や体の疲労を和らげるだけでなく、眠る事で体内環境が整備され3種のホルモンが脳下垂体から分泌される。

《成長ホルモン》が疲労回復と組織の新陳代謝を促し、《メラトニン》は活性酸素を中和し《コルチゾール》が快適な目覚めに関わっている。眠る事で翌日も、快適に仕事が出来よう安眠熟睡をしたいものだ。眠ると脳が活性化し、記憶力や運動能力も向上する。夜の力にしっかりと抱かれて眠り、爽やかに目覚める。「夜の力」は偉大である。快眠こそが重要課題なのだ。

◆寝をびれると眼をつぶっても中々眠れない。通常、人を含め生物に備わっている「体内時計」が作動し眠れる筈という。人の体内時計の仕組みは米の3氏が発見、医学生理学でノーベル賞を受けた。体温や脈拍・血圧も全て体内時計で維持される。体内時計は25時間周期で動いているため、朝の目覚めでリセットする必要がある、リセットなしでは毎日一時間のズレが生じる。理想的な睡眠は七時間という、男女11万人の10年間追跡調査で、死亡率が最も低いのが睡眠七時間と判明、長くて短くても寿命に影響する。理想七時間のリズムを崩さぬよう、朝は太陽光を浴び体内時計をリセット、快適な人生を謳歌したい。

大輪田塾だより

令和3年度 大輪田塾修了論文発表会

本年度の大輪田塾修了予定者が、これまでの研修の総仕上げとして行う大輪田塾修了論文発表会が、10月19日(火)舞子ビラ神戸で開催されました。東根



修了論文発表の様子



講評する田和運営委員

壽塾長をはじめ、運営委員や県・漁協系統役員ら約50名が出席するなか、大輪田塾14期生1名、15期生4名は、それぞれ任意の研究項目で作成した修了論文を発表しました。

発表後に行われた講評で、運営委員を代表して関西学院大学田和正孝教授から発表者全員の前で論文の単位が認定され、一人ずつの論文に対し詳しく評価がなされました。田和運営委員は「5名の発表は、地域の特色や歴史、資源管理など多岐にわたる立派な発表でした。今後、更なる発展と活躍を期待します」と話され、発表者は安堵の表情と共に、これまでの苦労が報われたようでした。

相生のカキ養殖について考えた

JF相生 竹内 佑騎(14期生)
指導員：南山 卓範(県姫路農林水産振興事務所)

明石のマダコを取り巻く現状について
JF明石浦 清水 琢人(15期生)
指導員：岡辺 真一(県加古川農林水産振興事務所)

利用されていない水産資源(ワニ類、海藻類)の有効活用について
JF坊勢 永松 航(15期生)
指導員：南山 卓範(県姫路農林水産振興事務所)

淡路島岩屋漁協の今昔(いまむかし)
JF淡路島岩屋 濱田 直樹(15期生)
指導員：山條 喜宣(県洲本農林水産振興事務所)

資源管理ときよさい制度について
JFきよさい兵庫 藤原 聡志(15期生)
指導員：大橋 広義(県環境部農林水産局)

(発表順・敬称略)

【修了論文認定審査員(敬称略)】東根 壽塾長(兵庫県水産振興基金・田和正孝運営委員(関西学院大学)・中岸明彦運営委員(県水産課長)・平石靖人運営委員(県水産センター所長)・田中 稔彦運営委員(JF兵庫漁連)・小林孝司運営委員(兵庫県水産振興基金)